

現計画の検証

◆全体的な評価

- ・目標が抽象的で、項目も広範囲にわたっているので、焦点をしぼって集約してもいいのではないか。
- ・男女共同参画の必要性を明らかにすることが重要ではないか。
- ・現計画では、「花巻市総合計画基本計画」に掲げる施策の成果指標のうち、関連する部分を抜粋しており、男女共同参画の視点から必要な指標を定めているわけではない。
- ・指標は男女共同参画とどう結びつけるかを考え、実効性のある指標の目標数値を定めて検証していくべき。
- ・計画期間は、社会情勢の変化や国・県の動きを見ながら、必要に応じて見直しをする。
- ・計画書は見やすいものにし、多くの方に見てもらえるような配架方法などを工夫する必要がある。

*** 次期計画のコンセプト ***



計画をカスタマイズしましょう！

→国の計画ではなく花巻市の計画にする！

すべての分野を網羅する必要がある？

すべての分野に平等に力を注ぐ必要がある？

わかりやすく！

→専門家しかわからないような論文ではなく、小学生でもわかりやすい表現で

親しみやすく！

→文字ばかりの固いイメージから、図や絵を取り入れて気軽に手に取ってもらえる姿へ

はかりやすく！

→何がしたいの？と言われないような実効性のある指標（目標）で

成果と課題

基本目標 1 男女が互いに尊重し認めあうまち
(意識啓発、情報提供、DVに関すること)

- 意見交換会等の意見
- ▲アンケート結果
- 担当課考察

【成果】

- 地域の会合における役割分担について話をするようになった。
- 男性も賄い担当に積極的に入るようになった。だんだん浸透してきた。
- マスコミ等の影響もあり、男女共同参画という言葉はほとんどの人が知っていると思う。
- 男女共同参画推進員が寸劇などでPRしている。
- ▲アンケートの結果、男女共同参画について言葉も意味も知っている人の割合は前回調査(H15)に比べ2.9%増加した。
- ▲家庭、学校、職場、地域活動などあらゆる場において男性と女性の地位が平等になっていると思う人の割合が増加している。

【課題】

- 「男女共同参画社会」という言葉や意味を知っている人が増えてはいるが、思ったように数字が伸びていない。
- 地域社会や職場、PTAでは女性が前に出るとバッシングを受ける。
→男女ともに意識が低い
- 意識の問題は簡単には変えられない。
- 意識改革などの草の根的な活動が必要。
- 男女共同参画は意識の問題が奥にあると思う。皆に同じく浸透していくことが大事。
- いろいろな場で、男女共同参画について啓発していくことが必要。
- 男女共同参画というのが人権の問題だという意識がない。

- DVの相談をしない人が多い。
- 地元でDVの相談をしにくい。
- DVの相談体制の充実、周知が必要。
- 相談がないからといって花巻にDVがないわけではない。身近な人には知られたくない。
- DVだと本人が気づいていない場合がある。(高齢者もデートDVも含む)
- 市への相談件数はH26→29件、H25→25件。件数が多い少ないが問題ではないが、気軽に相談できることが必要。



男女共同参画に関する意識啓発が十分ということはない → 繰り返し、継続的な啓発
意識の低い層の底上げ、無関心をなくすことが大事 → 意識の高い人は推進する人に！
そもそもDVとは何か → 正しい理解と防止
大々的な相談窓口よりは気軽に相談しやすい雰囲気づくり

基本目標 2 男女ともに自立し支えあるまち (ワーク・ライフ・バランス、子育て、女性の就業、職場の環境づくり)

- 意見交換会等の意見
- ▲アンケート結果
- 担当課考察

【成果】

- 健康づくり課や各振興センターの事業として「男の料理教室」を開催していて、とてもいいと思う。 →家事へ男性参加や相手を思いやるきっかけとなる
- 子育て環境の充実
 - 保育園、幼稚園の数は変わらないが認可定員数を増加し、保育体制の充実を図っている。
(園数 43、定員数 H18→3,586人 H26→3,765人)
 - ファミリーサポートセンターを設置し、子育て支援のネットワークづくりを行っている。
 - 学童クラブは設置数、利用者数ともに増加している。
(H18→14か所、673人 H26→21か所、884人)
 - 医療費助成 市単独事業として小学校卒業まで対象を拡充している。また、3歳以上の未就学児についても所得制限と自己負担を撤廃し無料化を図る。(H27.8月から)
 - 予防接種 任意接種だった水ぼうそうについて、H26年度から定期接種に追加。インフルエンザについては、就学前の子ども及び小学生第2子以降の子どもについては3,000円を上限に2回の補助を実施(H27年度)
 - 相談 小児相談や育児学級を実施しているほか、こどもセンターや地域子育て支援センターにおいて相談を受けている。
- ジョブ・カフェによる就業相談やセミナーの実施
- 家族経営協定アドバイザーを中心に、協定締結の推進を行っている。
- 女性リーダーの育成と支援、女性担い手農業者への支援を行い、農業経営等における女性の参画の促進を図っている。

【課題】

- ▲アンケートによると、女性が職業を持つことについては67.7%の方が「職業を持ったほうがいい」と考えており、その意識は男女間で差がない。(男65.9%、女67.5%)
- 実際は、家庭の中では女性に負担がかかっている。
- 家庭での家事(日常の買い物、食事の支度、掃除、洗濯など)は、主に妻が行っている。
- ▲アンケートによると、男女がともに仕事、家庭生活、地域・個人生活の両立を可能とするためには、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備」や「労働条件面や昇進、昇格の機会での男女差の解消」、「保育・介護サービスの向上」を望む声が多い。
- 女性が仕事を続けていくためには、職場の理解と協力が必要。
- 市内企業のリーダーに職場での男女共同参画についてPRする機会を持ってほしい。
- 女性役員の割合を上げるためには、女性が出ていける環境を整えるべき。家庭、子育て、介護と女性に負担がかかっている。
- 男女雇用機会均等法で定めているものも、実際の職場では守られていないのが現状。



女性が働き続けるために職場の理解と協力が必要 → 企業等への働きかけ
育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備 → 制度面の充実が必要
労働条件面や昇進・昇格の機会での男女差の解消
保育・介護サービスの向上

基本目標3 男女が生涯にわたって健康で安心して暮らせるまち
(健康づくり、介護、高齢者の社会参加)

- 意見交換会等の意見
- ▲アンケート結果
- 担当課考察

【成果】

- ・健康づくりの推進
→保健推進委員や食生活改善推進員により、地域における健康づくりの推進を図っている。
- ・生涯にわたるスポーツ活動
→体育協会や各種競技団体によるスポーツやレクリエーションの普及を図っている。
→体育施設の充実（総合体育館、アネックス、総合運動公園、各地区に社会体育館）
- ・介護
→介護予防の推進、介護サービスの充実、地域包括支援センターの機能強化を図っている。
- ・高齢者の社会参加
→シルバー人材センターによる高齢者の雇用拡大の促進を図っている。
→高齢者学級等の充実により学習機会の提供を行い、生きがいづくりを推進している。

【課題】

- 介護は女性がやって当たり前という考え方がある。
- 性と生の重要性をきちんと教える機会を設けてほしい。
- 現計画の目標は男女の視点がわかりにくい。
- 各分野において市の計画が別に定められていることから、具体的な推進はそれぞれの計画により進めていくことでいいのではないか。
 - 花巻市保健福祉総合計画
 - 健康はなまき21プラン
 - 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
 - 障がい者計画、地域福祉計画
 - 花巻市スポーツ振興計画
 - 花巻市生涯学習振興計画



性と生の重要性を教える機会 → 正しい理解・発達段階に応じた教育
男女の視点で → 高齢者（退職後の男性も）の社会参加に男女差はないか

基本目標4 男女ともにいきいきと参画できるまち (政策・方針決定、地域づくり、国際化への対応)

- 意見交換会等の意見
- ▲アンケート結果
- 担当課考察

【成果】

- 男女共同参画の流れになってから、会議に女性が入るようになった。
- 農協は、女性の正組合員や理事・参与また女性総代を増やすため枠を設けている。以前より進んできている。
- コミュニティ会議にも女性が入っている。
- 市政懇談会への女性の参加割合が増えている。
(H22年 137人 12.33% →H26年 173人 17.47%)
- 審議会等への女性の登用率 (H17年 24.6% →H26年 29.2%)
- NPO法人等の市民活動における女性の活躍
- 女性学級や女性のつどい等を開催し、女性の意識向上と人材育成を推進している。
- 岩手県男女共同参画サポーター (H26までに65人、うち女性59人)
- 国際交流協会の事業等を通して国際理解の促進を図った。

【課題】

- 地域社会や職場、PTAでは女性が前に出るとバッシングを受ける。
- 夫に束縛されてサークル活動に参加できない。男性の男女共同参画の意識が女性よりも低い。
- 男女があらゆる分野に平等に参画できる社会を実現するためには、女性の積極的な登用、保育や介護サービスの充実、企業や職場への周知啓発が必要。
- 社会活動にもっと参加できるようにするためには、関心と意欲を持つことが必要。
- 女性が役員などになることについては、女性自身にも課題があると感じる。
- ▲アンケートによると、「役員などには男性になるほうがいい」と思っている人が多い。
(男48.2%、女49.7%)
- ▲アンケートによると、「女性はでしゃばるものではない」という意識がある。
(男27.3%、女31.5%) ←女性のほうが多い。
- 審議会等への女性の登用率は上がってはいるものの、市の「審議会等の設置及び運営に関するガイドライン」に掲げる目標値35%には達していないので、さらに推進する必要がある。



地域や職場の方針決定の場への女性の参画 → 男女ともに理解が必要
女性が意欲を持って仕事や社会活動ができる条件づくり
能力の向上・リーダー育成
審議会など市の取り組みに関心持ってもらうことが必要